



各施策の取り組み

施策群 1 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む

1 健康も
なくそう

3 すべての人に
健康と福祉を

4 質の高い教育を
みんなに

12 つくも責任
つめよう責任

17 パートナリングで
目標を達成しよう

施策1-1 子どもの心身の健全な発達支援

家庭や関係機関との連携を通じて、子どもの心と体の基盤となる生活習慣づくりを推進します。

成果指標

No.	項目名	現状値 令和5年度	目標値 令和11年度
1	早寝・早起き・朝ごはんを心がけるようになったと回答した方の割合（％）	84.2％	90.0％
2	むし歯がない6歳（年長児）の割合（％）	78.4％	82.0％
3	6歳（年長児）のむし歯り患率が0％の教育・保育施設の割合（％）	8.9％	15.0％
4	1日3食、野菜（おかず・汁物など）を食べる幼児の割合（％）	26.2％	30.0％
5	「親子で絵本を読む」と回答した方の割合（％）	78.0％	85.0％

現状課題

1	① 子どもの健全な発達を促進するため、「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みを実施 ② 保護者アンケートで、「心がけるようになった」割合は令和2年度の68.2％から令和5年度には84.2％と16p増加	子どもが健やかに成長するため、規則正しい生活習慣の定着をさらに強化することが求められています。
2	① むし歯のない年長児の割合は、特別区平均を下回るものの、令和5年度に78.4％と平成30年度の66.9％から11.5p増加	歯科健診データから年少児以降のむし歯増加が課題とされ、低年齢からの取り組み強化が重要です。
3	① 幼い頃から健康的な食習慣を身に付けるため、4歳から「ひと口目は野菜から」を推奨 ② 取り組み園数は令和2年度の156園から令和5年度175園と19園増加	取り組みを導入していない園に、その重要性を働きかける必要があります。また、家庭での定着も課題です。
4	① 令和3年度の小・中学生アンケートで、過去1か月に本を読んだ割合は、就学前に読書習慣があった子どもは95.5％、習慣がなかった子どもは77.9％で17.6pの乖離	図書館に来ない人や来られない人に対し本に親しめる環境を整え、また保護者が読書や読み語りの重要性を認識できる取り組みを強化する必要があります。
5	① 楽しさや心地よさを体験し、健康を維持しつつ積極的な意欲を育むことができる、子どもたちの運動遊びの実施	運動遊びに関する研修を年5回開催していますが、参加人数が少ないことが課題です。

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
1	早寝・早起き・朝ごはんの推進	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーの取り組み園数（園数） ≪【】内は対象園（全園）≫	126 園 【214 園】	170 園 【217 園】	+44 【+3】
2	歯みがき習慣づくり	年少児クラスから給食後の歯みがきに取り組む園の割合（％）	37.8%	90.0%	+52.2
		年長児で仕上げみがきをほぼ毎日している保護者の割合（％）	80.1%	90.0%	+9.9
3	食育の推進事業	「ひと口目は野菜から」の取り組み園数（園数） ≪【】内は対象園（全園）≫	175 園 【214 園】	184 園 【217 園】	+9 【+3】
4	保健所での健康教育・食育の推進	3～4か月児健康診査、育児学級、健やか親子相談の実施回数（回）≪【】内は参加者数≫	555 回 【5,885 人】	600 回 【6,000 人】	+45 【+115】
5	図書館のアウトリーチ事業	実施回数（回）	255 回	320 回	+65
6	あだちはじめてえほん	絵本を受け取った人数（1歳6か月児）（人） ≪【】内は全健診対象者≫	2,876 人 【4,260 人】	3,520 人 【4,000 人】	+644 【△260】
【再掲】	就学前教育の推進（施策1-2）				

● 令和11年度目標値を達成するための取り組み

1	① 家庭での取り組みを推進するため、各園で行われているカレンダーの利用方法の紹介や使い方の工夫を含めた提案を保護者向けにする等、規則正しい生活習慣の定着に向けた啓発の強化
2	① 年少児以降にむし歯になりやすい乳歯の奥歯をターゲットとした健康教室・啓発の実施 ② むし歯がある子どもの割合が高い施設に支援を行い、施設間の格差縮小を目指す ③ 小規模保育・家庭的保育事業者と連携し、3歳以前からの規則正しい生活習慣づくりの定着
3	① 幼い頃から健康的な食習慣を身に付けるため、取り組みを導入していない園に対し「ひと口目は野菜から」の重要性を丁寧に働きかける ② 家庭での定着を目指すため、取り組みを導入している園に「ひと口目は野菜から食べることの大切さを伝える」リーフレットを配布する等、園から家庭への啓発を強化
4	① 商業施設や子育てサロン等で読み語りイベントや出張による貸し出し、あだち電子図書館の利用を促進し、図書館にこない人・来られない人が絵本に触れる機会の提供 ② 区立図書館や幼稚園・保育園で、子どもに「読書の楽しさ」を伝え、保護者には「就学前の読書習慣が今後の読書習慣に影響を与えること」を案内 ③ 親子で楽しめる成長や発達段階に応じた本の紹介の実施
5	① 運動遊びは、子どもの意欲を育むために保育者の援助や環境づくりが大切であることを事前に周知し、「遊びを通して」身に付く運動能力を高めるため、指導計画を基に学識経験者と研修を実施 ② 保育者が子どもの発達や興味に応じた環境構成を工夫し、子どもが自発的に身体を動かす機会を引き出す援助ができるよう、専門性を高められる研修の充実



施策1-2 就学前からの学びの基礎づくり

教育・保育の質の維持・向上を図り、保育者の指導力を強化し、
子どもたちの学びに向かう力を育みます。

成果指標

No.	項目名	現状値 令和5年度	目標値 令和11年度
1	指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の巡回訪問等の際に改善されていた保育施設等の割合（％）	99.0%	100%
2	学童保育室の保護者満足度（％）	64.3%	70.0%
3	基本的生活習慣が身に付いている小学校1年生の割合（％）	89.8%	90.0%

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度
1	教育・保育の質の維持・向上（教育・保育施設）	子ども・子育て支援法等に基づく指導検査または巡回訪問等を実施した特定教育・保育施設等の割合（単位）％ ≪【 】内は保育施設等の数≫	100% 【355施設】	100% 【371施設】 ±0 【+16】
	教育・保育の質の維持・向上（学童保育室）	全学童保育室のうち、実地調査を実施した学童施設の割合（単位）％	56.0%	65.0% +9

現 状

課 題

1	① 保育施設等に対し、適正な運営を確認し指導する子ども・子育て支援法等に基づく「指導検査」の実施 ② 施設に寄り添う支援「巡回訪問」の実施	保育施設等の検査対象施設の増加に伴い、実施体制等を見直していく必要があります。
2	① 学童保育室において、学童保育支援員による「自己評価」「保護者アンケート」の実施 ② 2年ごとに区職員による「実地調査」の実施	運営主体による保育の質に差があり、どの学童保育室でも安全で安心な保育を提供できる仕組みが必要です。
3	① 保育士離職防止のため、「住居借上げ支援事業」や「奨学金返済支援事業」に取り組み、利用者は平成30年度の562人から令和5年度には899人と337人の増加 ② ハローワークや参加事業者と連携して各種SNS等で周知する等PR活動も実施	私立保育園での平均勤続年数が5年未満の割合は約8割です。保育士が定着し、安心して働くことができる職場環境を創設することが重要です。
4	① 幼児教育から小学校教育への滑らかな接続を推進しており、4月に入学した小学校1年生を対象にしたアンケートで、基本的生活習慣が身に付いている割合は約90%だった。 ② 子どもたちの「学ぶ力」の基礎となる「あだち幼保小接続期カリキュラム」を活用した連携活動や研修の実施	職員の教育・保育力向上に取り組むとともに、幼児教育から小学校教育への接続を一層強化し、子どもの基本的生活習慣や他者との関わり方、学びに向かう力等を育むことが重要です。

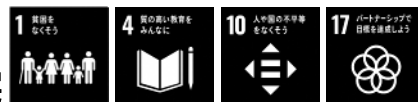
施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
2	保育士確保・定着対策	保育士等への経済的支援補助金利用者数（人）	899人	1,000人	+101
3	就学前教育の推進	年齢別研修のうち、集合研修（運動）の参加割合（％）	48.3%	70.0%	+21.7
		幼保小連携ブロック会議におけるあだち幼保小接続期カリキュラムの活用割合（％）	90.3%	90.0%	△0.3
【再掲】	図書館のアウトリーチ事業（施策1-1）				
【再掲】	あだちはじめてえほん（施策1-1）				

● 令和11年度目標値を達成するための取り組み

1	① 指導検査や巡回訪問の強化に向けた体制整備による継続的な教育・保育の質の向上
2	① 実地調査で明確になった課題について、各施設で「事業改善計画」を策定し、計画的に改善 ② 保育の質の向上及び保護者の満足度向上のため、区職員による定期的な「巡回訪問」の際の助言・支援等の実施
3	① 保育士確保・定着対策の継続実施 ② 保育事業者が率先して働きやすい職場環境づくりを進めるための各種研修等による支援
4	① 教員・保育者に対する研修や幼保小連携活動を通じ、互いの教育・保育の理解を深め、子どもたちの探求心や創造力を育む体験機会の提供

施策1-3 子どもの状況に応じた支援の充実



様々な悩みや課題を抱える子どもたちが、それぞれの状況に応じた支援が受けられるよう、支援体制の充実を図ります。

成果指標

No.	項目名	現状値 令和5年度	目標値 令和11年度
1	相談児童数のうち、関係機関と連携できた割合(%)	98.0%	98.0%
2	発達支援児の行動上の課題が軽減した割合(%)	91.0%	95.0%

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度
1	発達支援児の早期発見・支援の取り組み (子どもの健康診査)	3歳児健康診査受診率(%) ≪【】内は受診者数≫	95.2% 【4,159人】	96.0% 【4,000人】 +0.8 【△159】
2	乳幼児経過観察健康診査・乳幼児療育指導	乳幼児経過観察健康診査実施回数(回) ≪【】内は受診者数≫	76回 【459人】	80回 【480人】 +4 【+21】

現 状

課 題

1	① 3歳児健康診査では、医師や心理職等の専門職が支援の必要な子どもを早期に発見し適切な支援につなげ、乳幼児経過観察健康診査により経過観察が必要な子どもをさらにフォローするなど、子ども一人ひとりの発達特性に応じた支援を実施 ② 保健センターでの相談やこども支援センターげんきへの来所・電話相談が令和2年度の4,255人から令和5年度の5,885人と1,630人増加	① 各健康診査の受診率向上を図りながら、早期発見・早期支援に努める必要があります。 ② 迅速に対応するため、支援体制を充実させることが重要です。また、保育者や保護者の発達支援児に対する関わり等の理解をさらに深める必要があります。
2	① 区内の保育施設等で、外国にルーツを持つ子ども※を受け入れ、言語や習慣、食事に特別な対応を実施	外国にルーツを持つ子どもが教育・保育施設や子育て支援サービスを円滑に利用できるよう、支援や配慮が必要です。

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
3	発達支援児の総合的支援	相談児童数（人）	1,512人	1,560人	+48
4	従事職員のスキルアップ研修	講座実施回数（回） ≪【】内は延べ参加者数≫	12回 【626人】	12回 【900人】	±0 【+274】

※ 外国にルーツを持つ子ども・・・国籍を問わず、両親またはそのどちらか一方が外国出身である子ども

● 令和11年度目標値を達成するための取り組み

1	① 発達相談や巡回訪問時に専門職が助言することで、保育者及び保護者が子どもとの適切な関わり等を理解し、不安を軽減 ②-1 増加する発達相談に対する速やかな相談や専門職派遣等の支援体制の充実 ②-2 発達支援児一人ひとりの状況を的確に把握し、保育施設等での指導内容や指導方法の工夫を計画的に行い、健やかな発達を促すための職員に対する発達障がい児保育に関する研修内容の充実
2	① 外国にルーツを持つ子どもや保護者が安心して様々な子育てサービスを利用できるよう、関連所管が連携した案内冊子の多言語化をはじめ、通訳者の派遣やタブレット端末の活用による多言語相談支援の実施

施策1-4 子どもが社会と関わる力を育むための成長支援



家庭や地域と連携しながら、様々な学び、体験の場を広げ、子どもたちが自らの可能性を伸ばしていけるよう支援します。

成果指標

No.	項目名	現状値 令和5年度	目標値 令和11年度
1	アンケートで「新しいことを知ったり、チャレンジしたい」と思った子どもの割合(%)	81.0%	90.0%
2	あだち放課後子ども教室利用者満足度(%)	99.0%	99.0%

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度
1	体験活動(大学連携事業)の推進	大学連携によるプログラムの提供回数(回)≪【】内は参加した子どもの延べ人数≫	84回 【11,376人】	90回 【11,500人】 +6 【+124】
2	ギャラクシティでの多様な体験活動の提供	イベント・ワークショップ実施回数(回) ≪①【】内は、上記のうち地元企業やボランティアとの協働による企画数≫ ≪②【】内は延べ総参加者数≫	2,486回 ①【199回】 ②【111,710人】	ギャラクシティは、大規模改修工事により休館中 -

現 状

課 題

1	① ギャラクシティでは、文化芸術に触れるイベント・ワークショップの延べ総参加者数は、令和2年度の約11千人から令和5年度には約111千人と約100千人増加	文化芸術に関する体験や創作活動等を創出する機会を増やし、子どもたちの文化芸術に対する興味を高めることが求められています。
2	① 放課後子ども教室は、全学年実施校が令和2年度の51校から令和5年度には56校に増加 ② 延べ参加児童人数も約198千人から約427千人へと約229千人増加 ③ ニーズ調査 ^{*1} では、小学生が放課後過ごす場所として「放課後子ども教室」の割合が平成30年度23.4%から令和5年度32.1%と8.7p増加	放課後子ども教室では、放課後における安全・安心な居場所を確保する上で、全小学校で全学年を対象に実施されることが重要です。また、多様な体験プログラムが実施されることも求められています。
3	① 大学連携事業では、各大学の特色を活かした体験講座を実施 ② 参加した児童・生徒の80%以上にとって、チャレンジする意欲を育む有効な機会を創出	大学連携事業では、児童・生徒の興味関心や普段馴染みの少ない分野や内容が流行等の社会背景により変化していくことから、引き続き児童・生徒のニーズを捉えた講座内容の検討が求められます。
4	① ジュニアリーダーになるための育成研修会への参加者は、令和2年度の203人から令和5年度には290人と87人増加	子ども会を中心に活動する若いリーダーを育成するため、ジュニアリーダー育成研修会への参加者のさらなる増加が求められています。

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
3	あだち放課後子ども教室	実行委員会と公社※2の話し合いにより全学年対象の実施校数（校）	56校	67校	+11
		実行委員会と公社※2の話し合いにより開催する体験プログラム実施校数（校） ≪【】内は異なる分野の体験プログラムを複数実施している校数（校）≫	41校 【20校】	67校 【35校】	+26 【+15】
4	ジュニアリーダーの育成	子ども会のリーダーを育成する研修会の開催回数（回） ≪【】内は延べ参加者数≫	58回 【1,288人】	67回 【1,660人】	+9 【+372】

※1 ニーズ調査・・・令和5年度に就学前児童の保護者及び小学生の保護者を対象に、世帯の就労状況や教育・保育施設等の利用に関する意向等の調査を実施

※2 公社・・・足立区生涯学習振興公社

● 令和11年度目標値を達成するための取り組み

1	① ギャラクシティでは体験参加者を増やすために、施設利用者のアンケート結果の他、区民まつり等へのアウトリーチ事業開催時のギャラクシティを利用したことのない方からのアンケート結果も活用しながら、時代や年齢ごとのニーズを正確に捉えた事業を実施 ② 令和9年度から11年度まで大規模改修工事により休館する予定で、その間の文化芸術に関する体験機会の創出方法を検討
2	① 放課後子ども教室の運営を担う実行委員会と運営支援を行う公社※2が事業内容の拡充に向けて綿密な話し合いを行い、全学年対象の実施校の増 ② 充実した体験プログラム実施校の増
3	① 参加者アンケート等をもとに、大学側と協議し大学の特色を活かしながら、児童・生徒のより興味・関心が高い内容・分野での講座の実施
4	① ジュニアリーダー育成研修会の内容を充実させるとともに、ジュニアリーダーとして活動することの魅力が広く理解されるような情報発信

施策群 2 妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える

施策2-1 妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実



子育て支援を充実させ、安心して妊娠、出産、子育てができるよう、切れ目なく支えていきます。

成果指標

No.	項目名	現状値 令和5年度	目標値 令和11年度
1	子育ては楽しいと感じる割合（％）	74.7%	77.5%
2	保育コンシェルジュへの相談が役にたった方の割合（％）	98.0%	99.0%

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度
1	妊婦健康診査	妊婦健康診査受診回数（回）	48,634回	49,400回 +766
2	ファミリー学級	ファミリー学級学級数（回） ≪【】内は参加者数（実人数）≫	93回 【2,107人】	100回 【2,150人】 +7 【+43】
3	妊産婦家庭訪問事業	妊娠期から生後3か月までの支援対象者への訪問件数（件） ≪【】内は対象訪問件数（特に支援が必要な妊産婦×訪問4回）≫	1,678件 【1,504件】	1,600件 【1,600件】 △78 【+96】
4	こんにちは赤ちゃん訪問事業	こんにちは赤ちゃん訪問事業訪問件数（件）≪【】内は希望件数≫	3,936件 【3,941件】	3,650件 【3,650件】 △286 【△291】

現 状

課 題

1	① 「あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト（ASMAP）」を通じて、妊産婦に寄り添った支援の実施 ② 地域や制度とのつながりが持てず、孤立しがちな子育て世帯に対する支援が今後必要	妊娠中や出産の際、不安や悩みを解消する支援や孤立・孤独な状況にならないよう、支援が届きにくい家庭にもアプローチし、適切な支援につなぐことが必要です。
2	① 子育てサロンの利用年齢は0歳及び1歳が6割以上を占めている ② 年齢が上がると教育・保育施設に預ける人が増え、子育てサロンの利用者は減少傾向	育児のスタート期である0歳児親子の子育て不安を軽減するために、保健センター等との連携の強化が重要です。
3	① 保育コンシェルジュの相談延べ人数は令和5年度は4,120人と年々増加傾向 ② 保育施設利用申し込みのオンライン化による保活中の保護者とつながる機会が減少	より多くの保護者に支援が届くよう、事業の認知度を高めていくことや、未就園児の家庭への支援も必要です。
4	① 「あだち子育てガイドブック」で、子どもの月齢や年齢に捉われない子育て支援事業を発信	妊娠から出産・子育てまでの区の子育て支援施策を幅広く情報発信する必要があります。

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
5	乳幼児健康診査 (3～4か月児・1歳6 か月児歯科・3歳児)	乳幼児集団健康診査実施回数 (回) ≪【】内は受診者数≫	413回 【11,973人】	413回 【11,620人】	±0 【△353】
NEW・令和7年度開始					
6	子育て家庭訪問事業	子育て家庭訪問事業訪問件数 (件)	—	2,370件	+2,370
7	産前・産後家事支援事業	年間延べ利用件数(件)	1,026件	1,550件	+524
8	あだちファミリー・サポ ート・センター事業	年間延べ利用件数(件)	5,364件	6,036件	+672
9	子ども預かり・送迎等 支援事業	年間延べ利用件数(件)	17,088件	19,308件	+2,220
10	子育てサロン	イベント回数(回) ≪【】参加者総数≫	5,093回 【60,798人】	5,904回 【105,408人】	+811 【+44,610】
11	保育コンシェルジュ	保育コンシェルジュ利用 延べ人数(人)	4,120人	4,600人	+480
12	あだち子育てガイド ブックの普及	あだち子育てガイドブックの 配布場所数(か所) ≪【】は配布冊数≫	67か所 【21,300冊】	80か所 【18,500冊】	+13 【△2,800】
		区ホームページのあだち子育て ガイドブックアクセス数 (回)	4,047回	5,200回	+1,153
NEW・令和7年度開始					
13	子育て支援アプリの提供	子育て支援アプリの登録者数 (人)	—	19,000人	+19,000

● 令和11年度目標値を達成するための取り組み

1	① 妊娠中の健康診査や家庭訪問、出産後の赤ちゃん訪問や健康診査等、母子の健康管理や訪問指導などを通じて、親子の健やかな成長を支援 ② 新たなアプローチとして、0歳5か月~1歳4か月(3~4か月児健診と1歳6か月児健診の間の1年間)の子どもがいる全世帯に訪問し、子育て相談やよろずごとの傾聴、絵本等の配付と読み語りをを行い、子育てに関する寄り添い支援を強化
2	① 保健センター等との連携を図り、多様化する育児家庭の情報収集と子育てサロンの周知を強化 ② 収集した情報をもとに、幅広い利用者層の拡大に向けて多彩な子育て講座やイベントを実施
3	① 保護者の保活に対する負担感を減らすための取り組みを引き続き実施 ② 保護者が不安感や孤立感を感じることなく、安心して子育てができるよう、対面の相談ができる当事業を継続
4	① 冊子を配布する施設を拡充するとともに、電子ブックの周知を強化し、妊娠時から出産・育児等の子育てに関する支援を継続 ② 新たにICTを活用し、子育てに関する情報を容易に受け取れるよう、プッシュ通知等の機能を備えた子育て支援アプリの導入(令和7年度開始)

施策2-2 多様なライフスタイルに応じた教育・保育サービス等の充実



安定的な保育サービスや学童保育室の整備により、
保護者の働き方に応じた教育・保育等を提供していきます。

成果指標

No.	項目名	現状値 令和5年度	目標値 令和11年度
1	保育需要に対する待機児童率（％） 【低減目標】	0.04％	0％
2	学童保育室の待機児童率（％）【低減目標】	4.7％	0％
3	「男女が対等な立場で意思表示や活動をする ことができ、また責任を分かち合っている」 と感じている区民の割合（％）	27.0％	50.0％

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度
1	就学前施設の 建て替え・改修	就学前施設建て替え・改修数（件）	2件	14件 +12
2	学童保育室の運営	学童保育室受入可能数累計（人）	5,460人	6,466人 +1,006

現 状

課 題

1	① 平成27年度から6年間で4,352人分の保育定員を拡大し、令和3年4月以降、保育施設での待機児童はほぼゼロの状態を継続	地域ごとの詳細な需要分析に基づく待機児童対策の継続により、今後必要な保育定員を確保・維持していく必要があります。
2	① 共働き世帯の増加に伴い、学童保育のニーズが高まり、令和6年5月1日の待機児童率は6.4%と年々上昇 ② 待機児童が多い区域と定員割れの区域があり、需要と供給にアンバランスが発生	各地区のニーズを見極めながら、学童保育室を整備していく必要があります。
3	① 令和3年度の足立区男女共同参画に関する区民意識調査で、配偶者との役割分担に対する満足度はいずれの年代も女性が低く、また男女間の意識差は、30代以下では13.2、40代では21.2、50代では26.7と年齢が上がるにつれ拡大傾向	一人ひとりのワーク・ライフ・バランスの意識を高め、企業も含めた足立区全体の意識を醸成していく必要があります。

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
3	ワーク・ライフ・バランス（WLB）の推進	WLBを推進するため区内企業へ働きかけした件数（件）	— 【制度見直しの為、募集無】	2,000件	+2,000
		男性向け講座の実施回数（回） ≪【】内は参加者数≫	5回 【52人】	5回 【160人】	±0 【+108】

● 令和11年度目標値を達成するための取り組み

1	① 人口推計や保育ニーズの詳細な分析により、保育需要を正確に把握 ② 保育需要に応じた定員規模の適正化により、私立保育園運営事業者の経営を支援し、保育施設全体で年間を通じた安定的な保育サービスを提供し、待機児童ゼロを継続
2	① 新規事業者が参入しやすい環境を整備し、積極的に誘致 ② 利用者の需要が多い小学校内学童保育室の整備を実施 ③ 放課後子ども教室との一体的実施や連携強化等により、子どもが安全・安心に過ごせる居場所の確保
3	① ワーク・ライフ・バランス制度の見直しを行い、認定という「制度」ではなく、全ての区内企業が多様で柔軟な働き方を実現するため、更に充実した取り組みを進められる新たな支援事業の実施 ② 講座等の啓発を継続し、老若男女誰もが仕事・家庭生活・地域活動等様々な活動について、自らが希望するバランスで展開できるよう、ワーク・ライフ・バランスの着実な普及と啓発 ③ 性別に関わらず誰もが様々な活動にやりがいや充実感を感じながら責任を果たせる社会の実現のため、様々な場面で父親の育児参加を促します。妊娠中の生活や食事、出産・子育て等について、母親と父親が共に学ぶ日曜ファミリー学級の回数の拡充や、父親と子どもが図書館で「おはなし会と体験活動」が楽しめる取り組みを実施

施策2-3 配慮を要する子育て家庭への支援



児童虐待の発生予防や相談等にきめ細かに対応していくとともに、ひとり親家庭の経済的自立を促していきます。

成果指標

No.	項目名	現状値 令和5年度	目標値 令和11年度
1	虐待対応終結率(%)※1	59.1%	70.0%
2	ひとり親家庭向け就労支援(資格取得・求職支援)事業修了者の就業率(%)	93.1%	100%

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度
1	きかせて子育て訪問事業	支援回数(回) ≪【】内は利用者数≫	145回 【63人】	300回 【120人】 +155 【+57】
2	児童扶養手当	児童扶養手当認定件数(件)	654件	620件 △34
3	ひとり親家庭応援メールの配信	メール配信の情報件数(件) ≪【】は登録世帯数≫	210件 【4,509世帯】	225件 【4,000世帯】 +15 【△509】

現状

課題

1	① 令和5年度の児童虐待年間相談対応件数は1,530件で、令和元年度の994件と比較して約1.5倍に増加 ② 虐待が社会問題化する中、情報提供件数も増大し、令和5年度に寄せられた情報の約9割にあたる1,435件に虐待の事実を確認	全国的に児童虐待の件数が増加傾向にあり、虐待の未然防止や再発防止の取り組み、早期発見、早期対応が課題となっています。児童虐待対応では、虐待に対する自覚がない場合や、行政の援助を拒否する養育者も見受けられます。このような中でも、通告や相談の内容から虐待リスクを読み取り、関係機関と連携しながら養育者を支援できる、専門人材の育成が重要です。
2	① 令和5年度に児童育成手当※2を受給している母子・父子世帯6,069世帯を対象に実施したアンケートでは、約7割の世帯が現在の経済状況を「苦しい」と回答 ② 仕事や働き方を「続けたい」と「変えたい、仕事を始めたい」割合は約48%で同程度	ひとり親家庭は子育てと生計の維持を一人で担っており、時間的な制約が厳しい状況から、非正規での就労等を選択されることもあります。就労支援の様々な情報の提供をはじめ、個々のライフスタイルに合ったより良い条件での就業につながるよう、サポートや手当の支給等により、ひとり親家庭の生活を支え、経済的自立に向けて寄り添っていく必要があります。
3	① 地域とのつながりが持てない世帯の情報提供や支援による孤独・孤立防止	子育て家庭が孤独・孤立な状況に陥らないよう、支援が届きにくい家庭にもアプローチし、適切な支援につなぐことが必要です。

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
4	就労支援事業	ひとり親家庭向け就労支援事業を活用した人数（人）	190人	210人	+20
5	（区民の方向け） 児童虐待予防講座 の実施	講座の開催回数（回） ≪【】内は参加者数≫	10回 【181人】	10回 【200人】	±0 【+19】
6	児童虐待対応	児童虐待受理件数（件）	1,530件	1,530件	±0
【再掲】	子育て家庭訪問事業 （施策2-1）				

- ※1 虐待解決数（訪問指導や関係機関との連携により、虐待を起こす要因が解消された数）÷虐待件数
 ※2 ひとり親世帯等（父または母が重度障がい者の場合を含む）で、子どもを養育している方を対象に支給。手当の支給は、子どもが18歳になった日以降の最初の3月分まで。

● 令和11年度目標値を達成するための取り組み

1	① 発生予防に向けた啓発活動とともに、子育て世帯の養育状況の把握、育児不安の早期解消や養育支援の継続実施 ② 児童相談関連研修の積極的な参加や、児童相談所への派遣による専門相談員の育成 ③ 要保護児童対策地域協議会（子どもを守る地域ネットワーク）で必要な情報を交換し、各関係機関が持つ役割と専門性を活かしながら、子どもと養育者等の支援を実施
2	① ハローワークと連携した就労支援をはじめ、自立支援教育訓練や高等職業訓練給付金等、就職や転職に結びつきやすい有利な資格や技術の取得支援により、個々の家庭状況に合った多様な働き方を支援 ② ひとり親家庭に対する就労支援情報について、窓口での相談対応時やホームページ、広報紙、豆の木メール等により周知
3	① 0歳5か月～1歳4か月（3～4か月児健診と1歳6か月児健診の間の1年間）の子どもがいる全世帯を対象に訪問し、子育て相談やよろずごとの傾聴、絵本等の配付と読み読みの支援を行い、子育てに関する不安や悩みに寄り添う支援の実施

施策2-4 安全・安心に子育てのできる生活環境の整備



妊産婦、子育て家庭等が安心して外出できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを進めるとともに、全ての人が子どもの育ちを応援できる環境を醸成していきます。

成果指標

No.	項目名	現状値 令和5年度	目標値 令和11年度
1	ユニバーサルデザイン推進計画の個別事業の評価点の平均値（点） 【子ども子育てに関係する事業】	3.8点	4.2点
2	よく行く、または行きたい公園がある区民の割合（％）	46.8％	53.5％

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
1	ユニバーサルデザイン（バリアフリー）の推進	ユニバーサルデザイン推進計画の個別事業の評価点（点）	3.8点	4.2点	+0.4
		小学校高学年向けのユニバーサルデザイン出張講座の実施延べ回数（校）	12校	10校	△2

現 状

課 題

1	① 道路、公園、公共建築物等のバリアフリー化 ② 全ての人が利用しやすいユニバーサルデザインへの整備の実施	妊産婦、子育て家庭等が安心して外出できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを進めるとともに、全ての人が子どもの育ちを応援できる環境を醸成していくことが必要です。
2	① 目的に合わせて選べる公園整備、計画的で効率的な公園改修、公園利用のきっかけづくりを3つの柱とし、パークイノベーションの取り組みを実施 ② 改修を実施した公園での利用実態調査では「改修前より良い公園になった」と約9割が回答	世論調査では「よく行く、行きたい公園がある」区民の割合は4割から5割で推移しています。この回答には地域差が見られ、規模の大きい公園や特色のある公園が配置されている綾瀬、中川地区等は約6割、公園の規模が小さく公園数の少ない千住、足立地区等は約4割となっています。

施策を構成する主な事務事業

No.	事業名	活動指標	現状値 令和5年度	● 目標値 令和11年度	
2	パークイノベーションの取り組みの推進	パークイノベーションの考えに基づく、公園の改修、整備数（か所）※1	69 か所	139 か所	+70
	公園の魅力発信（パークイノベーションの取り組みの推進）	公園の魅力を伝える企画数（件）※2	18 件	22 件	+4
3	公園等遊具の安全対策と修繕への取り組み	足立区公園遊具維持管理計画による年1回の遊具点検「早めに対処を要する遊具」のD判定とE判定※3 数（基）【低減目標】 ≪【】内は全遊具数≫	6 基 【2,390 基】	0 基 【2,450 基】	△6 +60

※1 年間10か所整備を目標とする

※2 ニュースレター12回/年及び公園整備目標数10か所/年の合計を目標とする

※3 D判定：劣化、摩擦が進行しているため、3か月を目安に補修または撤去する

E判定：劣化、摩擦が著しく進行しているため、直ちに使用中中止し補修または撤去する

● 令和11年度目標値を達成するための取り組み

1	① 既存施設の改築や改修を進めるとともに、歩道の拡幅、誘導ブロックの設置等による整備の推進 ② 子どもが授業や課題活動を通じて、ユニバーサルデザインの理念に触れることで、「思いやりのこころ」を持ち、「こころづかい」のできる子どもの育成
2	① 公園施設の定期的な点検に基づく補修等を行い、安全な遊具の維持管理 ② 公園ごとにテーマを設定し、親しみやすく、特色や個性をイメージしやすい、目的に合わせて選べる公園の整備 ③ 魅力ある地域の公園を増やすため、安全を第一に考え、公園で老朽化した遊具等を優先的に改修する等、更生・更新を計画的に推進

